

(4) 南 関 東



南関東地域では、景気は緩やかに回復している。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は改善している。

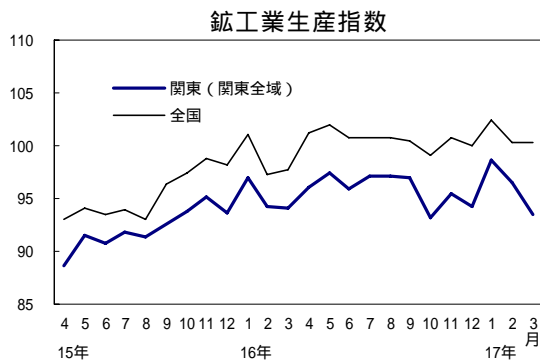
前回調査からの主要変更点

	前回（平成 17 年 2 月）	今回（平成 17 年 5 月）	
景況判断	回復の動きに一服感がみられる	緩やかに回復している	
鉱工業生産	このところ緩やかに減少	おおむね横ばい	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。（関東全域）

一般機械は、1月に半導体製造装置の生産が伸びたことから、2四半期ぶりに増加した。化学は、中国を中心とするアジアでのフェノールの需要が堅調であることなどから、2四半期ぶりの増加となった。輸送機械は、1月に普通乗用車の北米向け輸出が伸びたことに加えて、鋼船が法令改正による駆け込み需要の影響で引き続き大きく伸びたため、全体でも大幅な増加となった。情報通信機械は、1月に大型コンピュータの特需があったことに加えて、1、2月に新機種発売に向けた携帯電話の生産が集中したことから、増加に転じた。電気機械は、半導体・IC測定器が引き続き減少していることなどから、3四半期連続の減少となった。



- (備考) 1. 12年=100、季節調整値。
2. 平成17年3月の関東は速報値。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

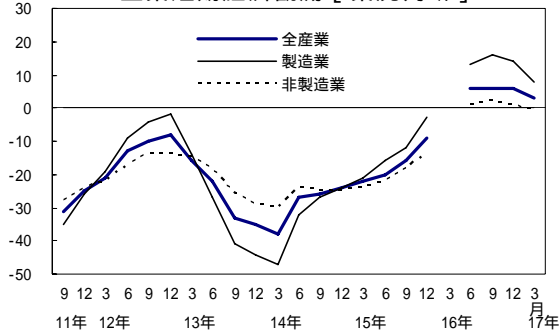
	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		10~12 月期	1~3 月期	1~3 月期	1~3 月期
一般機械	13.8	6.0	2.3	0.2	1.9
化学	13.7	6.7	6.9	6.1	3.7
輸送機械	11.3	3.4	11.5	0.9	1.8
情報通信機械	8.6	2.7	9.7	4.9	4.4
電気機械	7.9	1.9	4.4	1.1	2.7
鉱工業	100.0	2.8	2.0	0.4	0.7

- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。
2. 1~3月期は速報値。
3. 1~3月期の化学の生産、出荷については、1月、2月確報値の平均より算出。在庫については、2月確報値。

(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「楽である」超幅が拡大している。

企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

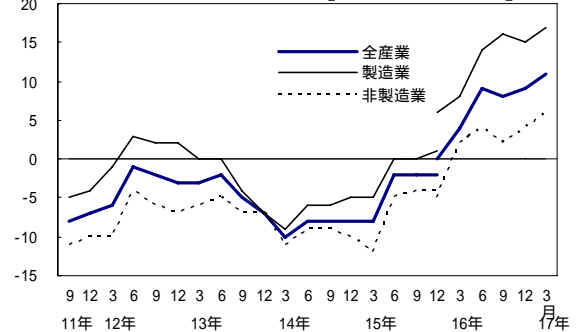
(%ポイント) 企業短期経済観測 [業況判断]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。

旧基準は15年12月まで。新基準は16年6月から。
関東全域(新潟県を含む)

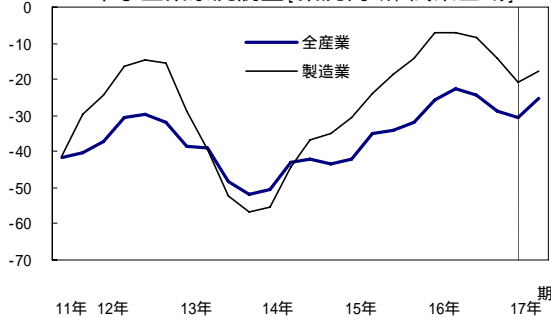
(%ポイント) 企業短期経済観測 [資金繰り判断]



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。

15年12月は新・旧基準を併記。
旧基準は関東全域、新基準は神奈川県。

(%) 中小企業景況調査 [業況判断、関東全域]



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。17年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(4月)[企業動向関連(現状)]

「受注量は若干増加しているが、原油価格の高騰による材料値上げに歯止めがかからず、価格転嫁しようとする海外生産に切り替えると決まり文句が返ってくる(プラスチック製品製造業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 16年度の設備投資は前年度を大幅に上回る見込みとなっている。

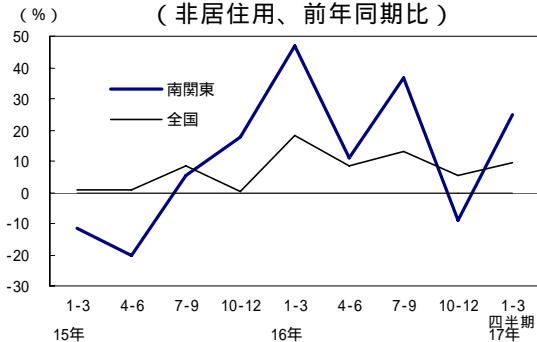
企業短期経済観測調査 [設備投資(3月調査)]

	(前年度比、%)	
	16年度実績見込み	17年度計画
全産業	24.8(0.2)	4.6
製造業	30.1(0.2)	4.9
非製造業	13.5(1.1)	3.9

(備考)()は前回(12月)調査比修正率。

調査対象は神奈川県。

建築着工床面積
(非居住用、前年同期比)



2. 需要の動向

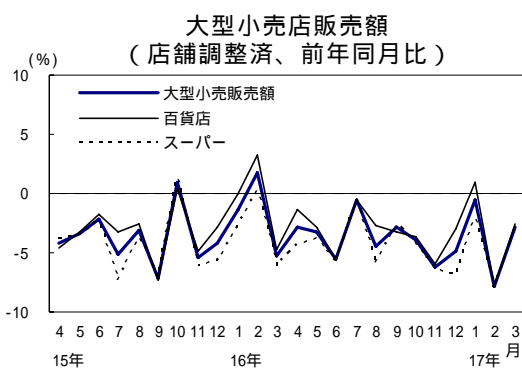
(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、1月は、初売りの効果や、気温の低下で冬物商品を中心としたクリアランスセールが好調であったことにより、靴やバッグなどの身の回り品に動きがみられ、11か月ぶりに前年を上回った。2月は、低めの気温により春物衣料に動きがみられず、うるう年であった前年に比べて営業日(日曜日)が1日減少したこともあり、前年を下回った。3月は、催事等の効果で身の回り品や家庭用品に動きがみられたが、低めの気温や天候不順の影響により春物衣料が不振で、全体では2か月連続で前年を下回った。なお、日本百貨店協会によると、東京地区の4月の売上高総額は前年同月比0.0%増、店頭売上高は同0.6%増となっている。スーパーは、主力の飲食料品が伸び悩んだことなどから、13か月連続で前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(4月)[家計動向関連(現状)]

「4月は天候に恵まれ、土曜日が昨年より1日多いこともあり、売上は1月以来3か月ぶりに前年同月を上回る見込みである。婦人紳士ともに春物、初夏物衣料、化粧品や食品が好調に推移している。一方、郊外店では競合環境が厳しくなるなかで、来客数、単価ともに下落傾向が続いており、全体的に苦戦を強いられている(百貨店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

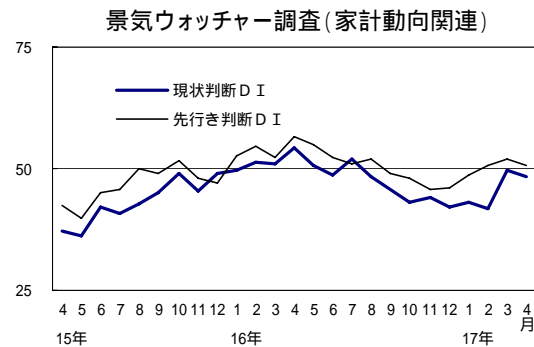
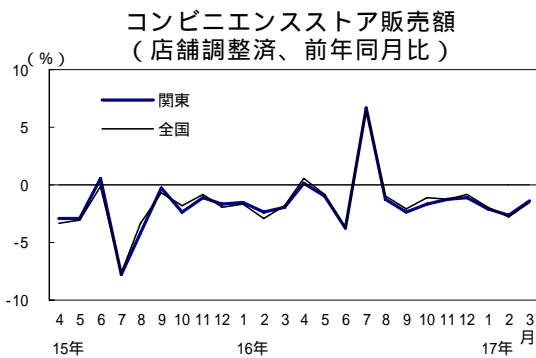


(前年同期比、%)

	16年4-6月	7-9月	10-12月	17年1-3月
大型小売店	3.9	2.5	5.0	3.5
百貨店	3.3	2.0	4.1	2.9
スーパー	4.6	3.1	6.0	4.2
コンビニ	1.6	1.0	1.3	2.1
景気ウォッチャー	51.3	48.8	43.0	44.8

(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。17年1-3月期は速報値。コンビニは関東全域。

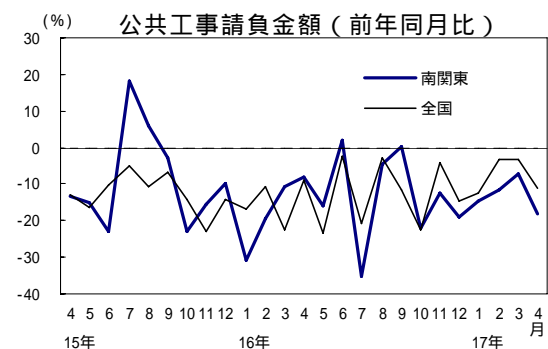
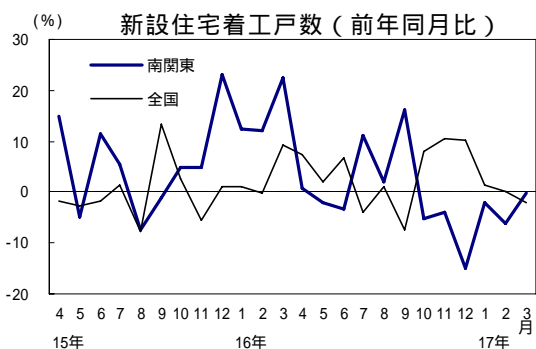
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断DIの3か月平均。



(2) 住宅建設は減少している。

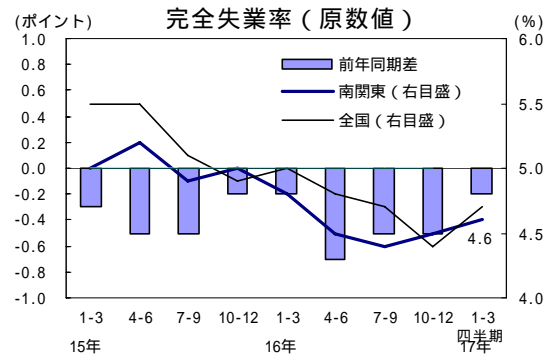
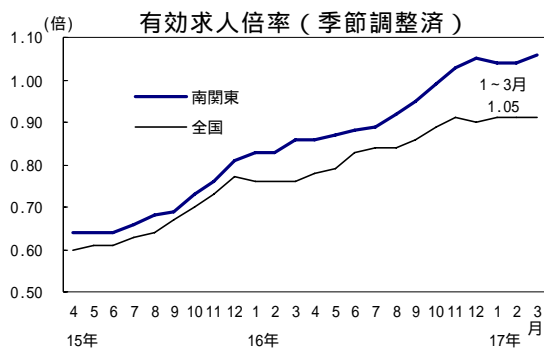
貸家、持家が前年を下回ったことから、全体でも減少している。

(3) 公共投資は16年度累計で見ると前年度を下回っている。



3. 雇用情勢等

- (1) 雇用情勢は改善している。
有効求人倍率及び完全失業率
有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査(4月)[雇用関連(現状)]

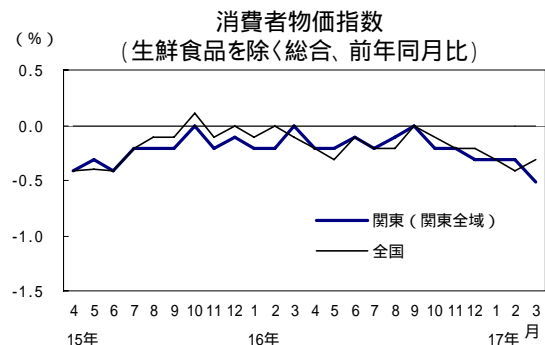
「3月から4月中旬までは求人数が昨年を上回っていたが、4月後半から少しずつ失速気味で、特に正社員の募集が減少傾向にある(求人情報誌製作会社)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

- (2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

- (3) 消費者物価指数は下落している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	16年4-6月	7-9月	10-12月	17年1-3月	17年4月
倒産件数 (前年比)	1,075 16.9	1,080 10.6	1,007 13.4	940 19.8	273 32.6
負債総額 (前年比)	7,549 11.4	7,251 46.2	7,080 10.2	6,518 49.4	1,104 72.7



景気ウォッチャー調査(4月)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

- ・販売点数の減少が依然として続いている。一品当たりの単価が、ほんのわずかだが上昇している。4月の特徴として、新製品のビールが非常に好調に推移している(スーパー)

<先行き>

- ・愛知万博等の廉価商品は好調だが、国際会議、見本市を多数開催予定の中国関係の販売が相当冷え込む見込みである(旅行代理店)

景気ウォッチャー調査(合計)

